

阪急沿線 ちょい駅散歩

25 駅目

こうとうえん

甲東園
KŌTŌEN

← もんどやくじん
MONDO-YAKUJIN
にがわ
NIGAWA →

「西宮七園」と呼ばれる高級邸宅地の一つ、甲東園。駅から西へ歩けば坂道が続く。この辺り一帯は上ヶ原台地と呼ばれ、日本有数の文教地区だ。関西学院大学を中心に大学院から幼稚園までが集まり、約3万人もの学生がこの地で学ぶ。さあ学生時代を追いかけて、ちょいと散歩へ出かけてみよう。



甲東園駅 | 所在地 / 西宮市甲東園
設置 / 1922年6月1日

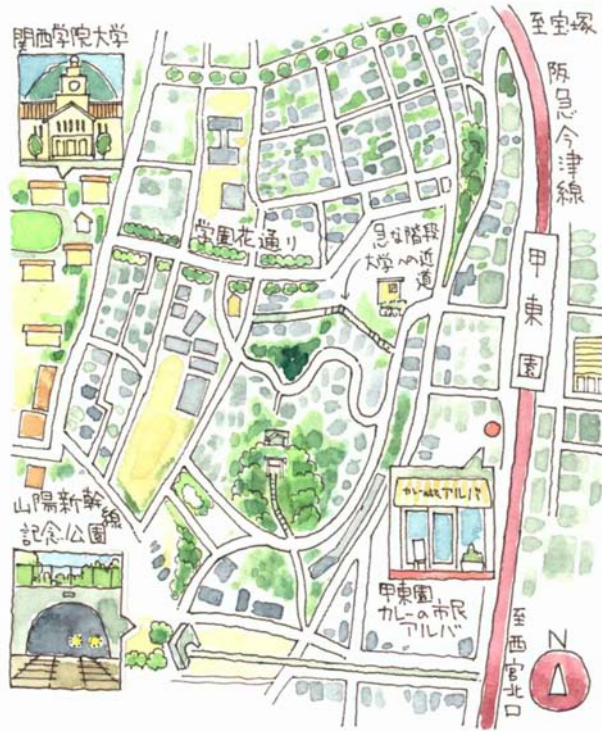
”あの頃“を探しに関西随一の文教地区へ



関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス 赤瓦屋根と白壁で統一されたスパニッシュ・ミッション様式

阪急電鉄創業者・小林一三翁による貢献で昭和4(1929)年、神戸市より移転した同キャンパス。異国情緒が漂う校舎の建築は、W・M・ヴォーリズによるもの。中央芝生を軸に、左右に校舎、正面に時計台、さらにその背後には雄大な甲山が控えるという綿密に計算された景観設計はお見事。国の登録有形文化財でもある時計台のそばに佇めば、どこからか若々しいエネルギーにあふれた学生たちの声が聞こえてくる。戦時中は迷彩色に塗り替えられたという時計台だが、今は優しく学生たちを見守っている。

●見学可能時間9:00~17:00(土・日曜・祝日は電話予約がベター) / ☎0798-54-6017(関西学院大学 広報室)



学園花通り 新入生を祝福する桜並木

入学式の頃、この道の両側にはまるで新入生を祝い迎えるように桜が咲き誇る。実はこの桜、近くに住んでいた林勇さんが、「街を明るくしたい」という思いから自費で苗を購入して、昭和28(1953)年から一本一本スコップで植えたのだそう。この思いの込められた桜は林さんが亡くなった後も、その遺志を継いだ人々によって植え替えや手入れが続けられ、今も道行く学生たちを見守っている。



新幹線を真上からの隠れた鉄道スポット

六甲山を東西に貫く「六甲トンネル」の入口に位置する、通称「新幹線公園」。木の葉が風に揺れる音が心地よいこの公園に、突然ゴーツというものすごい音が。東の方向に目を向ければ新幹線がやって来て、立っている真下をあっという間に走り抜けてゆく。なんだか少し背筋がゾワゾワとしてしまうほどの大迫力だ。

山陽新幹線記念公園
●園内自由

甲東園 カレーの市民 アルバ 家族みたいな「ごちそうさん!」「ありがとう」

目の前に行き交う阪急電車が見える、カウンター17席の小さなカレー店。クラブ活動帰りの高校生や親元を離れて暮らす大学生が「いつもの味」を求めて通いつめる。看板メニューの一つ「たこ焼きカレー」は濃厚で香り高いカレールーに、サクサクとした揚げたたこ焼きが4個乗ってボリュームたっぷり。学生思いのオーナーが考案したトッピングには「フライドポテト」150円や「ハンバーグ」200円など食べ盛りの学生が喜ぶメニューが並ぶ。



●11:00~21:30 / 無休 / ☎0798-51-0827

